

仙北市新規採用職員 議会傍聴の感想（8名）

社会福祉課 主事 小松 真穂^{まほ}

市所有地の栗の木を伐採することによって、栗農家の被害が拡大する可能性がある。なので慎重に検討するということがあった。どんなことでも、もちろん簡単には決められないし、様々な可能性を考えて多角的な視点で判断することの大切さを感じた。

今回の傍聴研修で、仙北市職員としての業務が、直接市民の声として反映され、議員へ届き議題となることを、身をもって感じた。自分には遠い存在だと思っていた議会は実は身近であると分かった。自分も仙北市の為に何ができるか日々考え行動に移していきたい。

企画政策課 主事 長澤 結唯^{ゆい}

今回の研修を通して、東京都や東京都に通勤する東京都近郊住民が就職、起業した場合の移住への手厚いサポートがあることや、国道46号には安全性の低さだけでなく物流の不安定さに関する問題も抱えていることなど、仙北市に関する知識の浅さを実感した。担当する業務や仙北市の施策についてさらに理解を深め、県内外の他自治体の施策についても学習し、今回の一般質問で議論されていた課題だけでなく、仙北市が抱える課題解決に向けて尽力していきたいと感じた。

包括支援センター 主査 草薙 那津喜^{なつき}

仙北市の状況や他市の状況を踏まえながら、市長や執行部の方が答弁しているのが印象的で、一般質問に至るまで多くの準備がされていることを窺い知ることができた。デジタルツールを使っている所も印象的だった。

一般質問に意見が上がるのは、市民の関心がある事柄も多くあり、地域課題を知る機会となる。ただ市民の関心が薄いことでも、取り組むべき事業等もあると感じた。市民の代表である市議会、市政を運営する市執行部が目線を合わせて、足並みを揃えていく必要性があることを理解することができた。私たちの日々の業務でも、改めて根拠のある丁寧な仕事をしたかった。

上下水道課 主事 富樫 弘稀^{ひろき}

今回の研修では実際に議場に行き、一般質問を傍聴した。その中で特に印象に残ったのはクマ対策についての質疑応答だった。市有地にある全ての栗の木を伐採しないのかという質問に対して、民有地の木にクマを集めることに繋がる可能性があるため検討中であると回答しており、市民の安全のためには迅速に行動を起こすことは大切であるが、様々な可能性を考慮して慎重になることも同じく大切であると学ぶことができた。

建設課 技師 戸嶋 史玖^{りく}

特に印象に残っている市長の答弁として、「仙北市は広大な土地があるため、それらを生かした産業の成長化を行うことで、さまざまなビジネスチャンスの可能性が生まれる」という部分です。私は、若年層の転出超過や少子高齢化による農業就業者の減少など、厳しい課題にばかりフォーカスしていた。そのため、仙北市の強みや将来の可能性について、学ぶことができた。また、AIを利用した「スマート農業」の推進により、農業のあり方がめざましく変化していくため、仙北市が今後どのような方向性で進んでいくのか気になった。

国保市民課 主事 藤村 佳奈^{かな}

秋田新幹線の始発と最終が角館、田沢湖にとまらないことやそれぞれの地域間をつなぐバスがなく高齢者の移動手段がないなどの交通の便が悪いという問題です。これは世代を問わず感じている方が多いと思います。また、魅力のあるイベントを行っても交通の便が悪いことによって観光客の方も地域の方も参加しにくい状況だと感じました。

ほかに様々な課題がありますが解決するにあたり財政的な問題もかわってくるため思うようにいかず難しいことが分かりました。それでも今より良い方向に少しずつでも改善する努力を続けて、今の子どもが大人になった時に住み続けたいと思える仙北市になって欲しいです。

子育て推進課 主事 伊藤 蒼友汰^{そうた}

実際に自分が傍聴した一般質問の場は、質疑応答が活発に行われていて、非常に良い話し合いの場になっていてと感じました。特に印象に残ったのは、熊による人身被害対策への質問です。檻など熊対策の物が現在の数量では足りていないのではないかという意見や、ドローンを用いた熊の調査に対する賛同などがありました。市全体の、熊に対する危機感の強さや、被害対策への前向きな姿勢を感じました。

改めて自分も熊に対しての意識を見つめ直し、物置の戸締りの確認など、身近なことから対策をしようと思いました。

生活環境課 技術員 佐藤 郁美^{いくみ}

初めて市議会を傍聴し、実際の議場の雰囲気を知ることができて良い経験になった。

質問にあった、公共施設の現状や空き家対策について、自分が普段利用する機会のない施設のことや、相続土地国庫帰属制度があるというのを初めて聞いて、もっと視野を広げていかなければならないと思った。

今後市議会の内容について関心を持ち、仙北市が抱える課題について「自分ならどうするか？」という姿勢で向き合っていきたい。また、今回聞くことができなかった他の質問への答弁も、後で確認しようと思う。